

## 東京西地区大学図書館協議会 2009年度研修セミナープログラム

テーマ:「図書館システムを再び考えるーベンダーと図書館サイドが望むシステム機能ー」

日時:2009年6月17日(水)13:00~17:00

会場:首都大学東京 南大沢キャンパス 11号館204教室

### プログラム

12:00ー 自由見学(首都大学東京図書館およびベンダーブース)

13:00ー 受付開始

司会 創価大 山口氏

13:30ー13:35 開会挨拶(会場提供館 首都大学東京)

平成17年4月 都立4大の再編。今年3月1期生が卒業。南大沢, 日野, 荒川に校舎がある。  
185万冊本館62万冊(南大沢)

13:30ー14:30 講演「OPACと図書館システムの「次」を目指して」

林賢紀(ハヤシ, タカノ)氏(農林水産研究情報総合センター)

センターに於ける OPAC の紹介、取組の紹介。時間があればデモ。

図書館雑誌6月号にも記事掲載あり。

検索機能の強化

・リファイン、ファセット

個別対応はベンダー、利用者双方にとって良いのか?

図書館側で簡単なカスタマイズできないか? ←を中心に説明する

3. なぜ農水省で「電子図書館」?

研究職員約4000名

利用者は全国に散らばる → ネットワーク化が不可欠

1970年代後半から

5. 目標ポリシー ネットワークの活用が不可欠

センターの役割= 共通(各研究所)で利用できるものの提供

・EJ の提供

・システムの提供

・文献 DB の提供

システムの試行と運用まで(資料なし)

職員による試行 → 評価 → システムへの反映

ベンダー側へ

システム更新のスケジュール(資料なし)

4年で更新

初年次 運用開始

2年目 中間評価 利用者アンケート実施

3年目 中間評価を受け 設計 ベンダー, 図書館有識者と打ち合わせ

仕様策定 2-3月

8-9月 から約半年かけてシステム構築 翌年4月から運用開始

迅速に情報を届けるために

地域間の情報格差の解消

地域特有の情報(農業 北海道-沖縄では全く求められる情報が違う)

プッシュ型サービスのニーズが高い

逐次雑誌内容を見ている時間はないので、内容目次?をメールで発信。

メールを見て必要な文献の複写依頼をする。

メールは埋もれてしまう可能性あり

blogとRSSの出現

RSSを図書館の新着情報通知に利用できないか?

2003年に整備

MAFFIN News Feeds Center

ポータルサイトの作成(2006年~)

新着資料のRSS通知で得られたもの

RSSの情報だけでは利用者は読まない → 書誌情報を合わせて配信

HTMLで作成し配信

書誌情報を提供するサービスへ

OpenSearch 準拠サイト a.9.com/CiNii/国会のポルタ

検索方法を工夫

長いURLを配信するのではなく固定リンク(Permalink)を利用。

これによりメール等で配信しやすくなる。

IE7, 8 Firefoxの検索プラグインを利用することで、

どのHPを見ている、ブラウザ上からすぐに所蔵検索が可能。

OPACへの入り口が増えた

NACSISへの加盟もしているが、まだほとんどデータを登録していない

Googleなどをうまく利用する

アクセス件数

ポルタ経由 最大 50,000 件

センターOPAC 最大 35,000 件

今後の方向性

データの開放性を高めウェブ上での提供を前提として

多様な方法で王位に入手、活用できるようにする

この方法を元に 2008年 から NDL-OPAC からの書誌データ DL, ざっ作の RSS 配信を開始

「次」への試み

図書館システムと OPAC を分離

→ OPAC を部品として捉える

API の提供により、図書館員用のシステムと利用者用システムは

完全に分離できる?



図書館側で利用者にとって利用しやすいインターフェースの整備が容易になる  
システムの個別カスタマイズの工数を減らすことができる → コストの削減

#### メタサーチシステムの導入と・・・

MetaLib(Ex Libris 社)と API オプションである X-Server を導入  
市販の製品を利用者が使いやすいようにフリーウェアと組み合わせる

#### まとめ

RSS の利用開始 → API による書誌情報の出力、提供  
結果、利用方法の多様化: 自由なインターフェース構築の可能性

単なる目録検索サービスから「データプロバイダ」(サービスプロバイダ)へ

#### 質疑応答

嘉悦大学 清水氏

Q:OPAC がデータプロバイダーとなることで、ユーザインタフェースを OPAC とは切り離して独自に開発できるようになった。農水省のシステムは、より豊かな情報を提供を目指すのか、それともユーザインタフェースの充実を目指すのか。

A:情報の提供に関しては、ある程度豊かな物が提供でき、目標が達成できていると考えている。そのため今後はユーザインタフェースの充実を目指したい。さしあたり、新たに作成したユーザインタフェースの評価をおこなうところから始めたい。

Q:評価はどのようにおこなうのか

A:利用者にアンケートをとることにより評価を行いたい。また、注視点を追うことで、ユーザインタフェース中でよく見られる部分と見つけ出すこともしたい。

14:40-15:00休憩→農水省のデモ(自由参加)

15:00-16:30 アンケート結果に基づいたシステム事例発表及び業者コメント

#### 事例発表

##### 1. 津田塾大学 村田氏 リコーリメディア

1996年に導入し2004年リプレイスを検討 → リメディアの継続を決定

##### (1)書店システムとの連携

丸善「KNOWLEDGE WORKER」オンライン発注の実現 2006 年から運用開始。ID/PW は図書館システムを頻りに利用する教員に限定し配布。教員は自由にアクセス可能。図書館は1日1回 KNOWLEDGE WORKER に蓄積されている申込データをリメディアからCUIでデータを取り込む。

リメディア「発注管理」→ ISBNで重複管理 → 発注(丸善以外も可)確定 → CUI 発注データ抽出し書店のサーバへ転送 ※丸善以外に発注するものは「取り消し」扱いとする

運用:法人カードでの決済が可能となり、洋書は Amazon などを利用し、安く購入することになり、その結果、導入時より「KNOWLEDGE WORKER」の利用は少なくなった。

メリット:ユーザー(教員)はオンラインで発注情報の確認ができる。

##### (2)リメディア選定の理由

個別データファイル「件名ファイル」がある点を評価した。件名ファイルの典拠コントロール機能がある。※これは津田塾大学以外はほとんど利用していないようである。

##### 2. 創価大学 大塩氏

##### (1)資料収集ナビゲート機能

OPAC検索結果 所蔵0件→ 学外から取寄せ／購入依頼／横断検索 の3つのボタンが表示され、それぞれの申し込み画面へ遷移する。ILLは「訪問利用申し込み」も可能。購入希望はニッパンマーク、ジャパンマークを利用(日販の許可を得ている) 横断検索は MetaLib/SFX を利用(EndNote 対応)資料調査－検索－入手－引用文献作成といった一連の流れをシステムで実現。購入依頼件数の増加、ILL 業務労力の軽減につながっている。

#### (2) 検索結果詳細からのリンク機能

表紙画像(丸善)／図書内容(WebCatPlus)／感想(独自) 全学読書運動で蓄積してきた学生の感想文やレビューを表示。

#### (3) ピックアップ機能を使ったレポート参考文献一覧作成

ポイント レポートテーマを入力し学習記録を作成 MyLibrary機能を利用している。

#### (4) システム立上時のバッチ処理

宅配貸出申請帳票が出力される。学籍移動発生 対象者の貸し出し状況帳票が出力される

#### (5) ガイダンス受付処理

図書館システム上に開催データを登録し、受付開始日になるとOPAC上に表示される。

利用者はその表示からオンラインでの申込が可能 → 参加者リストは出欠確認表として利用。

### 3. 実践女子大 伊藤氏

#### (1) 3つの目標(伊藤私案)

##### ① 選定基準

図書館スタッフ自身が使いやすいシステム( → スタッフが案内しやすいシステム)

構成員(利用者)が使いやすいシステム

外部利用者が使いやすいシステム

##### ② 小さな改善(低コスト)で大きな効果を

##### ③ 可能であればデータは自作する

#### (2) MyLibrary の横断検索から ILL へ

MyLibrary から2次情報DBを利用しILLの申し込みへ連携

エンドユーザーの書誌入力労力を軽減

今後、スタッフも同様の利用が可能になるようベンダーへ要求

#### (3) EJの書誌情報とOPAC連携

Excel でデータを作成しTSVファイルで図書館システムに取り込みが可能

登録は短時間だがキーワード切り出しに時間を要する

#### (4) 雑誌コードの利用

巻号取得には利用できないが ISSN の付与されていない雑誌の管理等への可能性

#### (5) リンクアウトと資料同士の関連付け

OPAC から WebCatPlus / GoogleBook / GoogleScholar などへリンク

#### (6) 次期システム

冊子体－EJのリンクは現在も可能であるがマイクロや縮刷、Web版などとのリンクを可能としたい

書誌情報に対し資料種別を問わず相互リンクができれば良いと考える

「海外文学－翻訳本」のリンク、「古典籍－現代語訳」のリンクなどを実現してほしい

以上、質疑応答なし。(15:35)

### ベンダー

#### 1. 日本事務機器(渡辺氏)NeoCILIUS

システムの特徴 シリウス 1994年～ NeoCILIUS 2000年～ (業界最初のWebシステム)

##### ① バージョンアップにより、利用者サービスの機能強化

・ユーザビリティ(使いやすさ)

・日英中韓 4ヶ国語対応

・クイックサーチ採用

・各画面で必要となるヘルプを表示

##### ② 情報発信ポータルへ

- ・利用者を待つシステムから積極的な配信システムへ  
新着情報／お知らせ／カレンダーなどがトップページ
- ・レファレンス対応可能
- ・RSSでの配信可能
- ③検索機能の強化
  - ・外部DBリンク(実践と同様)
  - ・OPEN URL 対応とし、他DBから NeoCILIUS へのリンクが可能
- ④MyLibrary
  - ・Myブックシェルフとアラートメール配信

アンケートの回答 D社

## 2. リコー(中西氏)RIMEDIO

1994年から大学図書館向けにリリース。図書館システムとしては後発組。  
ユーザーの要望を反映させ、システムのバージョンアップを行っている。  
毎年7月に東京・大阪でセミナーを開催している。

アンケートの回答 B社

追加質問への回答

- 質問1 スタッフ支援のシステム、利用者が使いやすいシステムへのバージョンアップを行っている。
- 質問2 各社との差異はさほどないが、ユーザーの意見をシステムに反映しシステム構築をしている。
- 質問3 最新の機能・技術を研究するが、今何が必要かを考える。
- 質問4 2極化が進むが、パッケージとして標準のものをリリースするであろう。
- 質問5 ASP対応も検討したいと考えている。

## 3. 富士通(松永氏)iLiswave

アンケートの回答 C社

追加質問への回答

質問1

積極的に対応を検討したい機能

発注事故情報 可能であれば対応したい機能

経理システムと図書館システムの相違の抽出 学籍システムとの連携

レベルアップとして シラバス連携

質問2

大学図書館の共同利用、共同運営を視野にいれ、分館機能の強化を念頭に。

他の学内システムとの連携の強化。

質問3

大学全体のトータルシステムの開発を強化することで図書館システムの開発も強化可能と考える。

質問4

2009年度 iLiswave v.2 スタンダード版とカスタマイズ版をリリース予定。

質問5

日外アソシエーツと連携し情報提供をしている。

学術情報横断検索について新たなシステムを提供予定。

## 4. 京セラ丸善(斎藤氏)

アンケートの回答 E社

アンケートの集計結果へのコメント

「大変満足」が少ない、少なからず「不満」がある → 改善が望まれている  
成熟してきているが、完成されたシステムではないことがわかる。  
もっと利用者に使ってもらえるシステムとしたい。

追加質問への回答

質問1

今回のアンケート結果や要望を取り入れ、高機能のシステムの構築を目指す。

質問2

25年前、フルオーダーメイドで開発していた。その経験をパッケージに活かしている。環境の変化に順応する必要がある。

質問3

市場の活性化はあまり望まれないが、開発技術が高まることで省力化・費用抑制につながると考える。

質問4

多くの機能を準備し、各館の要望で機能のON/OFFが可能。

質問5

将来的にはASPサービスを提供することで高い信頼性と低コストでアプリケーションを提供したいと考える。

## 5. 日立製作所(福田氏)UNIProve

アンケートの回答 A社

追加質問への回答

質問2

差異はなくなってくると思う。委託も進み、システム間の差異が無いほうが使いやすいのでは？

質問3

大学情報システム全体を扱っているベンダーであるが、図書館システムがこのままでよいのか疑問あり。いかに低コストで構築できるか、目を惹くシステムとできるかを検討している。

質問4

大学間での集約なども視野にいれたシステムを検討したい。

質問5

大学の他システムとの連携は強化してきている。

E-Learning やデジタルコンテンツも検索させ、提供できるように開発したい。

## 16:15-16:50 質疑応答

嘉悦大 リプレイス時に部分的にリプレイスが可能か？部分的に他社とのシステム連携が可能か？

> 日本事務機器

現状は無理だが、海外ではASPでOPACのみの納入を実現している。日本での運用も検討できる。

> 富士通

リプレイス時はハード、ソフトの保守の問題も視野に入れる必要がある。

嘉悦大 経理システム等との連携について、大学全体のシステムとされると手が出しにくい。部分的に導入するようにしてほしい。システムの公開も含めて検討して欲しい。オープンにデータを取得できる手段を提供する予定はあるか？なぜパッケージソフトウェアの開発に拘るのか？

> 京セラ丸善

APIでのベンダー間でのシステム情報の交換予定は現在はない。しかし、図書館システム界として検討していく必要はあるだろう。ただし、それにより使いやすいシステムが出来上がるのかは疑問が残る。

東京外大

①OPACに望まれる機能は年々高まっている。OPACのみリプレイス(同社内または他社も含めて)するなど可能か？②学内他システムのサーバーと相乗りすることは可能か？

> 富士通

①業務側のWebAPIいかに整備するか、利用者データをどこに保存・蓄積するかなどが課題。

②時刻の同期が取れない(予約の優先順位)など懸念材料がある。テスト環境では実施している。

一橋大 ベンダー側から図書館への提案・要望があればお聞きしたい。

> 日立

図書館システムにかけられる経費が抑えられている現状で、学内での図書館の位置づけを高める必要があるのでは。その手助けを行っていきたい。

>リコー

学内での図書館のステータスを高める手伝いをし、図書館予算に反映すると良いのではないかな。

法政大 一橋大への回答内容について、大学内で図書館の地位を上げるために具体的な考えがあるか？

>富士通

システムの標準化を進め、一人のSEが複数の大学へ納入することがメーカー側としてはコストダウンが図れる。(低コスト)大学評価に対する取り組みを行っている。機関リポジトリの運用を図書館スタッフが構築できるようサポートをしている。

武蔵野大

フリーの図書館システムが出現しているが、既存のベンダー以外をどのように考えているか？

>日本事務

機能が限定されているものがリリースされてはいるが、脅威に考えている。

中央大 大学間で仕様を共通化し、各館のカスタマイズを減らしたいがどう考えているか？

大学側が各館の要望を前面に出すのではなく、歩み寄る必要もあるのではないかな。

>京セラ丸善

ユーザー会で要望を吸い上げて、カスタマイズを減らしたい。

16:50-17:00 まとめ、閉会の挨拶(幹事館 法政大学 和田氏)

図書館システムの未来を話し合えたのではないかと考える。

今回は西地区のみに案内したが、もっと参加者を募ると良かったかもしれない。

個人的な考えではあるが、システムで図書館内をブラウズする機能(My書棚)などが盛り込めたら面白いのではないかと考える。コスト面は難しい点が多く、図書館システムを事務システムの一部と位置づけることも考えられるが、大学間の調整、システムの調整などが必要となる。そういった点からも、システムの標準化が不可欠と考える。

林先生の話しにもあったが、OPACは情報を探すツールの一つである。図書館の地位を上げ、予算を獲得するためには、図書館の従来の役割と、学習・教育支援部門とどのような連携を図っていくのが重要なポイントとなるのではないかな。利用者参加型のシステム(例:創価大の感想書き込み、閲覧)も目を惹くのではないかな。

以上